



地域なんでも情報局

令和2年11月11日発行
長崎市社会福祉協議会
長崎市上町1番33号
☎095-828-1281

コロナに負けない！ 地域のつながり

コロナウイルスの影響を受け、これまで通りとはいかなくなつた地域の活動も色々な知恵を絞って再開されています。そこで今回は社協小島支部と社協日見支部の活動をご紹介します。



小島支部では30年以上食事サービスの活動が行われています。これまでは、毎月小島地区ふれあいセンターに集まり、楽しく会食をしていました。が、コロナウイルスの影響を受け、食事サービス代表の園田会長を中心に話し合いをし、配食で再開してみよう！と決まりました。密にならないために、短時間で出来るメニューを心を込めて作り、完成した料理を温かいうちに届けたいと、心地よい汗をかき

ながら訪問したところ、「嬉しいね〜」「美味しそう」「わざわざありがとう」と参加者はスタッフとの再会と美味しそうな料理に喜んでおられました。

続いて日見支部では、毎月参加者とスタッフあわせて60数名の大所帯で食事を開催していましたが、現在はやむを得ず休止をしています。しかし、参加者の皆さんが少しでも明るい気持ちになればとスタッフの温かい想いから、9月に食事会の参加者を対象に、敬老の日を兼ねて紅白饅頭と心のこもった手紙をお届けしました。更に日見学童保育とんねるクラブの子ども達からは、メッセージ付きの竹炭で作ったキーホルダーを、日見・橘地域包括支援センターからは「コロナに負けない体



長崎市社協 小島支部・日見支部

を作る」と題して広報紙と一緒ににお渡しし、受け取った参加者は「嬉し〜」と喜ばれていました。日見支部では、11月から食事会の再開を予定していますが、石井支部長は「感染予防を徹底しながら来て良かったと思ってもらえる食事会にしていきたい」と熱い想いを語っておられました。これからも様々なアイデアと温かい想いでつながる地域の輪を社協は応援していきます。(佐々野 由佳)



日見学童保育とんねるクラブと日見・橘地域包括支援センターからの贈り物を添えて♪

コロナ禍でも新しい仲間づくり

9月18日(金)滑石公民館にて高齢者ふれあいサロン「楠の木会」が開催されました。



滑石支部

こちらはサロンは令和元年10月から2度に渡りプレサロンを開催した後、コロナ禍のため初回の開催を思い悩まれていましたが、感染予防対策を実施の上、執り行うことになりました。初回の講師は「もつてこい長崎レクリエーショングループお手玉の会」から中島るり子先生をお招きし、都道府県の連想ゲームや、ペットボトルの蓋を用いた自作ゲームなど、身近にあるもので「遊び」を考えることなど、受け身ではなく、主体的に取り組むことが大切との話にみなさん聞き入っていました。



先に集中



(熊谷 俊和)



「当会ホームページから「地域なんでも情報局」バックナンバーがダウンロードができます！」
「長崎 地域なんでも情報局」で検索。

西城山2020スポーツ体験教室

社協西城山支部主催による「高齢者と親子のふれあいスポーツ体験教室」が9月13日（日）に、西城山小学校体育館において開催されました。

このふれあいスポーツ体験教室は、西城山支部の重点目標である「社協支部活動の周知を図りながら、子供から高齢者まで共同でできるイベントを考え、ふれあいの場を増やすことによりよい町づくりを目指す。」という趣旨のもと開催されています。

当日は、地域の高齢者・児童とその保護者を含め、約80名が参加し、長崎市スポーツ推進員の指導のもと、



ドッチビー



ピロピロ

誰でも簡単にできるレクリエーションが用意してありました。初めて行う種目にも最初は皆さん思うようにいかず苦戦していたみたいですが、ピロポロ（ホッケー）の試合では、ソフトステイクを上手く使いこなし、パスがつながりだすと徐々に点数も決まりだし、1点入ると無言のハイタッチがあらちらこちらで見られ、コロナ感染対策を徹底しながらも会場はとても盛り上がっていました。

今回、第2回目のふれあいスポーツ体験教室となりましたが、三世代の交流を通じ、コロナに負けない！地域の繋がりがより一層強まったようです。（原 英幸）

折り紙を楽しもう

このほど、長崎市老人憩いの家・香焼ひまわりで「折り紙をたのしもう」をテーマに教養講座があり、

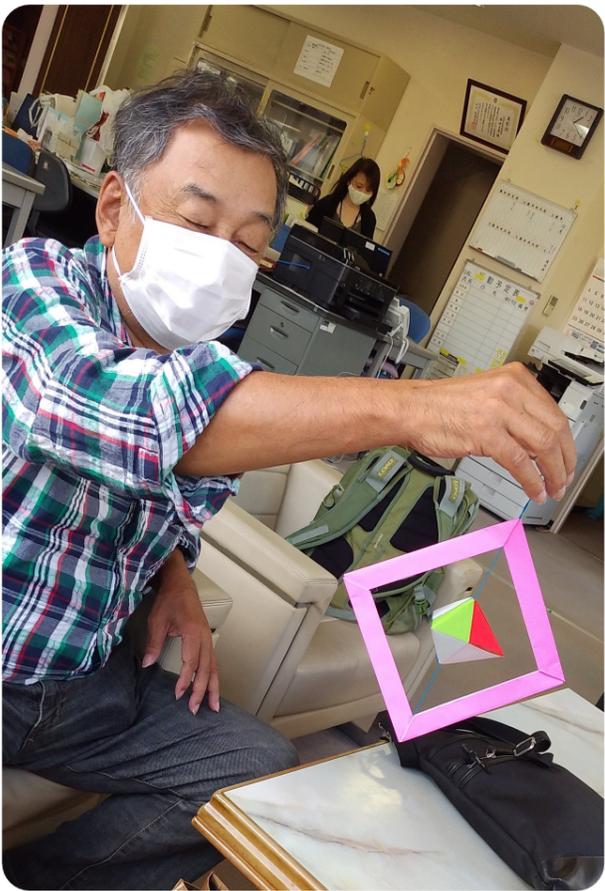
香焼地区から多くの高齢者が集まりました。参加者の平均年齢が80歳を超えていると聞いてびっくりしました。この日は、折り紙作家の浜田勇さんを講師に、紙飛行機を折って飛ばした後、鶴の基本形を折って、はばたく鶴ができたなら、みなさん興味津々の様子で実際に鶴を動かしていました。

次に、講師命名の「おにぎりぶらりん」として、ひし形のくす玉に糸を通して四角の外枠にぶら下げる折り紙（写真）を講師の指導で作りました。香焼町馬手ケ浦から参加した中田弘子



香焼支部

さんは、「本を見ても折り方が分からないから、香焼ひまわりのチラシを見て参加した。」「最初は難しかった。でも、やっていくうちに完成したら『やったーあ！』と自分を褒めたくなった。家に帰ったら夫に教えて、早速、玄関に飾りたい」と瞳を輝かせていました。（本村 信幸）



新しいつながりの形

ヒント紹介



三密を避けて

開させたいけど…」とお悩みの方も多くいると思います。

そこで、コロナ対策を意識しながらも「地域のつながりを絶やさんばい」というテーマで、地域や人とのつながりを途切れさせないために各地域で行っているちよつとした工夫やヒントをまとめ、社協支部で活用してもらうために『支部活動のヒント』を作成しました。

新型コロナウイルス感染拡大が今なお続く中で、社協支部では三密に配慮しながら活動を再開していただいている所もあれば、やむを得ず中止や延期といった所もあるようです。

活動の現場では、コロナ禍で「みんなと集まりたいけど…食事会やサロンを再開したい」という声も聞かれます。このヒントを各支部役員をはじめ、高齢者ふれあいサロン等の担当者へ届けたところ「もったいない」と嬉しい反響をいただいております。

主な内容は、

- 一部 支部での工夫した活動の紹介
- 二部 新たなつながりアイデア集
- 三部 熱中症とコロナ感染予防の方法

令和2年9月
社協西城山支部
長崎市社会福祉協議会

コロナ禍における支部活動のヒント

～地域のつながり絶やさんばい！～

新型コロナウイルス感染拡大により、外出や人と会う機会が少なくなり、地域におけるさまざまな集まりや活動も、中止・延期または縮小となっています。

これまで高齢者ふれあいサロンや食事サービスの開催時には、声かけや見守りもできていましたが、これらの活動の休止によって、心身の健康が心配な方が増えています。

活動の休止によって、地域でのつながりの大切さに改めて気付かされました。

そこで、長崎市社協では、コロナ対策は意識しながらも、「地域のつながり絶やさんばい」というテーマで、地域や人とのつながりを途切れさせないために各地域で行っているちよつとした工夫やヒントを集めました。

これが、これからの支部活動の一助になれば幸いです。

第1部 地域福祉担当職員が見た～

支部での工夫した活動の紹介

1 高齢者ふれあいサロン

- ・透明のパーテーションを設置してカラオケ。
- ・飲み物は各自で持ってくる。
- ・スワール形式でDVDを鑑賞。
- ・裁縫や折紙で作品を作る。
- ・対面での会話を控えている。
- ・時間を短縮して実施。
- ・参加できない人に手紙を書く。

（本村 信幸）